

ひたち物語

～ひたちらしさの数々～

2020

12

Month

Vol.1

“ひたちの絶景”



～『ひたちらしさ』が紡ぐ物語～

私たちの故郷日立市。

西は阿武隈山脈に連なり、東は太平洋を臨む豊かな自然と穏やかな気候に恵まれた『美しい自然を満喫できるまち』です。

また、明治時代から、鉱業や電気機械工業などの近代産業が発達し、日本有数の工業都市として成長してきた『ものづくりのまち』でもあり、自然と産業が調和した様々な魅力にみちあふれています。

市民と企業が協働して環境問題を克服した象徴として春になると市内一面を彩る桜、水戸藩の時代から重んじられ企業が成長する過程で発展してきた教育環境、5億年前の日本最古の地層が生み出した美しい自然景観、常陸国風土記にも登場する由緒ある海産物や泉など、自然環境の豊かさや独自の文化・伝統、産業、施策など、日立市固有のものや、他に比べて独自性・優位性を持つものを『ひたちらしさ』と呼んでいます。

私たちの身近にあり、日々当たり前のように感じているこれらの『ひたちらしさ』の数々は、魅力的なたくさんの物語を紡いでくれます。

皆さんの気づかなかった身近な美しい風景や歴史など、もしかすると新たな発見があるかも知れません。

是非、『ひたち物語』をお楽しみいただき、皆さんオリジナルの物語を紡いでみてください。

ひたちの絶景

日立市は、四季を通じて様々な景色を見せてくれる「風光明媚なまち」です。

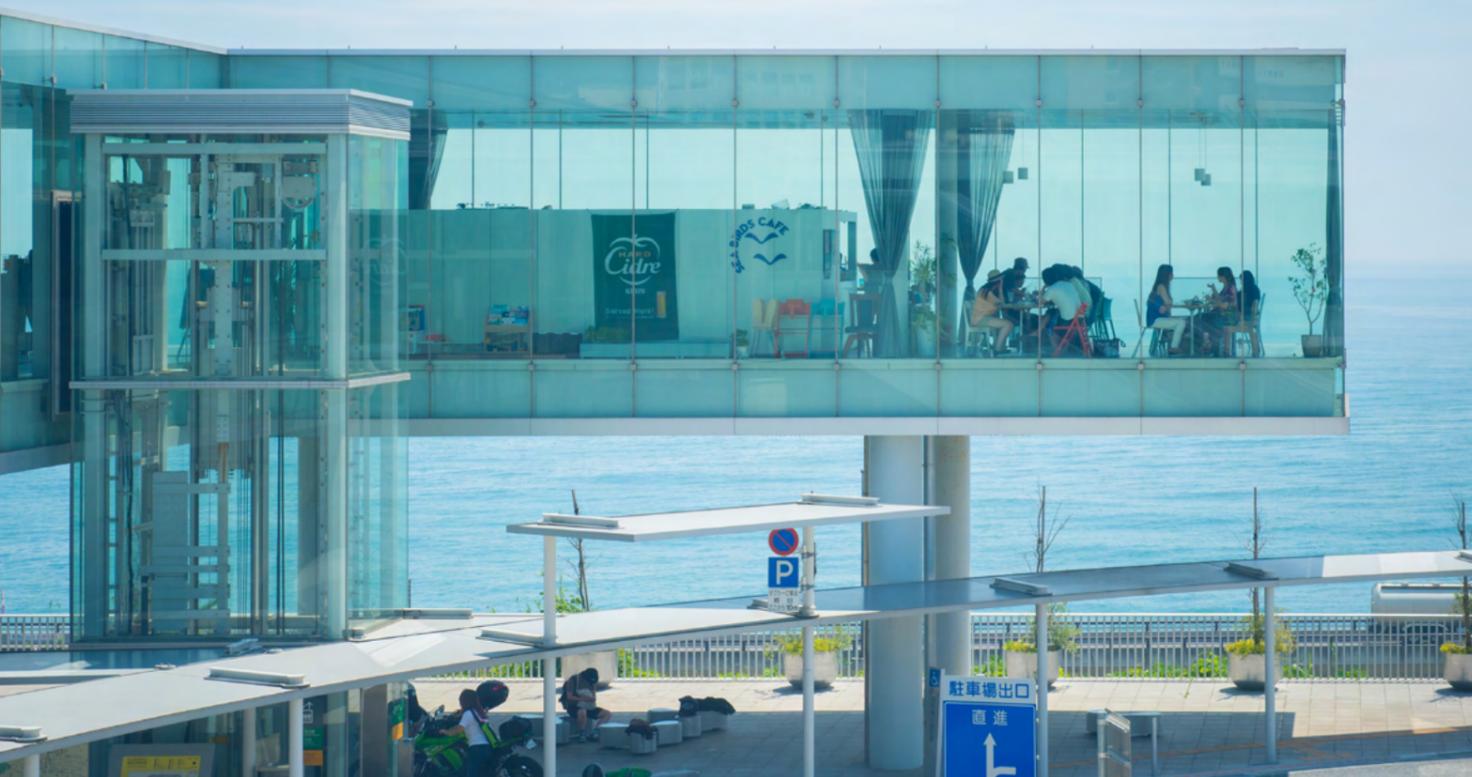
「水戸黄門」として親しまれる徳川光圀公が「日の立ち昇るところ領内一」と称えたとされる美しい朝日をはじめ、自然が魅せる風景、そして都市的な風景、またその二つの絶妙なハーモニーが演出する日立ならではの息をのむような景色の数々。それらの景色一つ一つには素敵なエピソードや知られざるストーリーが秘められています。

今回は、その中から特におすすめの「ひたちの絶景」をご紹介します。これを見たら、あなたもきっと足を運びたくなることでしょう。

目次

<small>ひたちえき</small> JR 日立駅	04
<small>さくら</small> 桜	05
<small>おぎつ やまし ぜんこうえん</small> 小木津山自然公園	06
<small>おぎつ ふどうだき</small> 小木津不動滝	07
<small>こぼうち こうえん</small> 古房地公園	08
<small>ひがしなめかわ とうえん</small> 東滑川ヒカリモ公園	09
<small>いずみ もり</small> 泉が森	10
<small>かわらごかいがん</small> 河原子海岸	11
<small>すけがわ やまし みる もり</small> 助川山市民の森	12
<small>やけい</small> まちの夜景	13

電車を降りた先に見えるのは青い水平線
市の玄関口“JR 日立駅”



JR日立駅は、1897（明治30）年に、助川駅として旧海岸口の線路を挟んだ山側で開業しました。その後、1939（昭和14）年に、当時の助川町が日立町と合併し日立市となったことで、日立駅に改名されました。2011（平成23）年に完成した美しいガラス張りの橋上駅舎は、2012（平成24）年にグッドデザイン賞を、2014（平成26）年には鉄道関連では唯一の国際デザインコンペティション「ブルネル賞」の優秀賞を受賞するなど、これまでに11の賞を受賞しました。

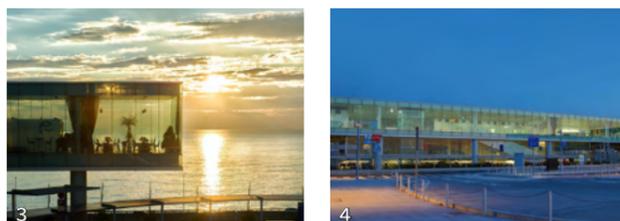
また、2020（令和2）年1月27日の「NIKKEI STYLE」（日本経済新聞社）に掲載された「デザインに見惚れるモダン駅舎10選」で2位に選ばれました。

日立駅のデザインを監修したのは、現在、世界中で活躍している日立市出身の建築家、妹島和世氏です。妹島氏は、2010（平成22）年に建築界のノーベル賞とも呼ばれる「プリツカー賞」を受賞しています。

2019（令和元）年9月から、誰でも自由に弾くことができる「えきピアノ」が、茨城県内では初の試みとして設置され、多くの人々を楽しませています。



1・2. 駅の自由通路の東側先端にある展望イベントホールは、太平洋が一望できる絶好のオーシャンビュースポット。ホール内には、妹島氏が代表を務めるSANAAがデザインした「フラワーチェア」が設置されています。



3. 駅に併設されたシーバースカフェは午前7時からオープン。店内から美しい日の出を見ることができます。
4. 夜になるとガラスが光り輝く。日立シーサイドロードからも、その美しさを見ることができます。



<基本情報>
【所在地】日立市幸町1-1-1
【問合せ先】日立市シティプロモーション推進課 0294-22-3111
【URL】<https://www.city.hitachi.lg.jp/citypromotion/hitachikaze/topic/001/p089318.html>



春には市内一円が淡く優しく色づく
工都以咲き誇る満開の“桜”

日立市のシンボルである桜は、市民と企業が力を合わせて煙害を克服した力強い歴史の上に育まれました。春になると日立市は、美しく咲き誇る桜でいっぱいになります。

今の日立市発展の原点となったのは、日立鉱山の創業でした。しかし、鉱山が発展していく過程で、周辺の山林や田畑は煙害による大きな被害を受けました。

日立鉱山は、煙害により荒廃した自然環境の回復を図るためオオシマザクラの苗木を育成し、1915（大正4）年から1932（昭和7）年にわたって、260万本のオオシマザクラを中心に推定500万本もの苗木を植えました。オオシマザクラが育つようになると、ソメイヨシノを接ぎ木して、苗木を大量につくりました。

ソメイヨシノに着眼した庶務課長の角弥太郎氏は、1917（大正6）年頃に社宅、学校、道路、鉱山電車線路沿い等に約2,000本を植えさせ、これらが日立市の桜の原点となりました。先人たちが受け継いできた本市の宝である桜を次の世代に引き継ぐため、日立市は2019（令和元）年7月に「さくら課」を設置し「さくらのまちづくり」を進めています。



1. 鞍掛山では、鉱山の煙害を克服するため植栽された桜の子孫である約520本のオオシマザクラやヤマザクラが見られます。
2. 十王パノラマ公園には、35種約400本の桜があり、春には花見客でにぎわいます。



3・4. 「平和通り・かみね公園」は「日本さくら名所100選」にも選定されています。平和通りには約120本のソメイヨシノ、かみね公園にはソメイヨシノやサトザクラなど約1,000本の桜が植えられています。

<基本情報>
【所在地】
写真1「鞍掛山」（日立市宮田町地内）
写真2「十王パノラマ公園」（日立市十王町友部1085-6）
<https://www.city.hitachi.lg.jp/park/page/p002168.html>
写真3「平和通り」（日立市平和町地内）
<https://www.city.hitachi.lg.jp/kankou/003/001/p001080.html>
写真4「かみね公園」（日立市宮田町5-2-22）
<https://kaminepark.or.jp/>
【問合せ先】日立市さくら課 0294-22-3111



白亜の灯台、芝生広場の緑、
青い海と空の調和“古房地公園”

こぼうち
古房地公園は日立市の南部に位置し、日立製作所大みか事業所や日立港区にほど近い海岸公園です。

白亜の日立灯台がまぶしい芝生広場で体操やジョギングを楽しむ人が多く、園内の展望台からは、太平洋の水平線を望むことができます。駐車場も完備されており、週末は多くの家族連れが来園します。

園内の「日立灯台」は、1967（昭和42）年に地域環境との調和及び港湾や漁港整備との協調を図るため、地域の特色を取り込んだ、和ろうそくの「デザイン灯台」として整備されました。

地元の方からは水木灯台、大みか灯台とも呼ばれ、親しまれています。夜は園内の街灯に照らされ、幻想的に白く浮かび上がります。

茨城県沿岸では唯一、巨大なレンズ（3等大型レンズ）を使用した灯台となっており、沖を航行する船舶の目印として強い夜間光を発しています。

日立市民文化遺産（産業遺産）に登録されています。



1. 芝生広場では、潮風を感じながら複合遊具やブランコを楽しむことができます。



2. 園内にある展望台からは、久慈浜海水浴場や久慈漁港、日立港区を遠望できます。



3



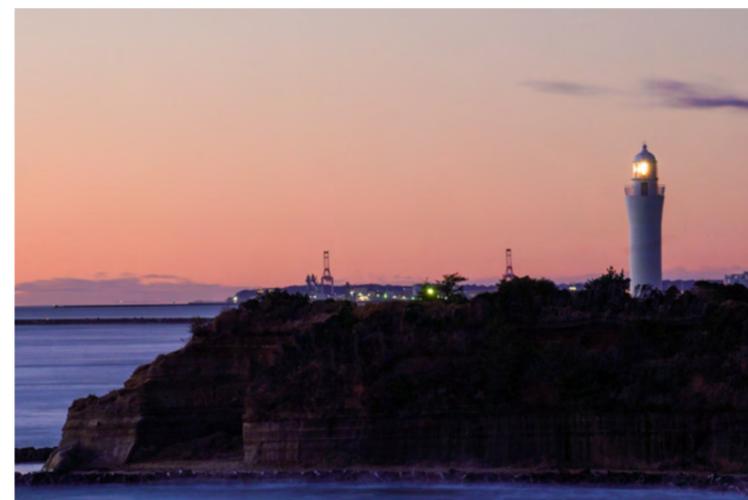
4



<基本情報>
【所在地】
日立市大みか町4丁目地内
【問合せ先】
日立市都市整備課 0294-22-3111
【URL】
<https://www.city.hitachi.lg.jp/park/page/p002541.html>



夜空に浮かび上がる「白亜の灯台」



朝焼けと日立灯台



航行する船舶を見守る灯台



ほの暗い洞穴の中で美しく輝く黄金の泉
水面に浮かぶ天然の金箔“ヒカリモ”



いにしえより絶えず湧き出る清水
今も昔も訪れる人々を癒す神域“泉が森”

東滑川ヒカリモ公園は、2019（令和元）年7月にリニューアルし、大型複合遊具や「インスタ映え」を意識した写真撮影用フレーム板などを整備しました。

光を反射し、黄金色に輝く「ヒカリモ」は、おうごんしょく黄金色藻類に属する淡水産の単細胞植物であり、遊歩道の数箇所に大小様々に見られます。現在、ヒカリモの生息面積は国内最大級であり、大切に保護されています。

2011（平成23）年に起きた東日本大震災の津波により、洞穴内に海水が侵入した直後はヒカリモを確認することができませんでしたが、同年10月に再び光り輝く様子を確認することができました。

園内には、遊歩道や景観を楽しむ横道が延びており、輝くヒカリモや美しい海に目をやりながら道を進むと奥には、5種類の健康遊具がある健康広場が広がります。海岸からの風を感じながら体を伸ばして、リフレッシュできます。

2020（令和2）年3月にオープンした大型複合商業施設「SEA MARK SQUARE（シーマークスクエア）」とは、園内から延びる歩道橋でつながっています。



1. 園内の遊歩道脇に点在する洞穴の中で、観察することができるヒカリモ。



2. 園内に生息するヒカリモは、国内最大級の生息地面積となります。



3. 2019（令和元）年7月にリニューアルし整備された大型複合遊具と、ウミウが羽を休めにくる通称「グミ島」を背景に写真撮影ができるフォトスポット。



4. 2019（令和元）年7月にリニューアルし整備された大型複合遊具と、ウミウが羽を休めにくる通称「グミ島」を背景に写真撮影ができるフォトスポット。



<基本情報>
【所在地】
日立市東滑川町 5-13-1
【問合せ先】
日立市都市整備課 0294-22-3111
【URL】
<https://www.city.hitachi.lg.jp/park/page/p002498.html>

泉が森は、奈良時代に編纂された常陸国風土記の久慈郡密筑の里の条に「密筑の大井」として記された歴史ある美しい憩いの場です。

かつてこの場所は、老若男女が飲食物を持参し、集い、飲んで、遊び、楽しんだと伝えられています。今も、周囲には常緑樹が生い茂り、中央には弁財天を祀る祠があります。

青白い砂をもくもくと吹き上げながら、こんこんと湧き出る泉の水温は1年を通して13℃前後で、夏は冷たく冬は暖かく、自然の恵みを感じられます。

1969（昭和44）年12月1日に茨城県指定史跡の指定を受けており、茨城百景にも選ばれています。

また、清らかな湧水が流れる自然環境を守るために活動する地域住民の取組をきっかけに、日立市は2001（平成13）年5月に「イトヨの里泉が森公園」を整備しました。2008（平成20）年6月には、「泉が森湧水」と「イトヨの里泉が森公園」が平成の名水百選として環境省から認定を受けました。



1・2. 弁財天を祭る巖島神社と清水がこんこんと湧き出る泉。泉神社の社記によると、「ある日、天から霊玉がこの地に落ちて泉ができた」と伝えられています。



1・2. 弁財天を祭る巖島神社と清水がこんこんと湧き出る泉。泉神社の社記によると、「ある日、天から霊玉がこの地に落ちて泉ができた」と伝えられています。



3・4. 「泉が森」から流れる湧水を活用し整備された「イトヨの里泉が森公園」。かつては、この湧水を利用して、ニジマスの養殖が行われていました。



3・4. 「泉が森」から流れる湧水を活用し整備された「イトヨの里泉が森公園」。かつては、この湧水を利用して、ニジマスの養殖が行われていました。



<基本情報>
【所在地】
日立市水木町 2-22-1
【問合せ先】
泉神社 0294-52-4425
【URL】
<https://izumi-jinjya.com/>



心地よい潮風が吹く白い砂浜
サーフィンの聖地“河原子海岸”



山林火災からの「再生」のシンボル
自然と人間が寄り添う“助川山市民の森”

河原子海岸は、白い砂浜と透き通る海が特徴の「河原子海水浴場」を有しています。河原子海水浴場は、日立市に6つある海水浴場のうちのひとつで、茨城県内でも定番の海水浴場として親しまれています。

また、日立市にある複数のサーフィンスポットの中でも、特に、河原子海岸は、全国大会が開催される、日本でも有数のスポットです。海岸の北側に位置する「河原子北浜スポーツ広場」には芝生広場が広がり、サーフィン大会を観戦することもできます。

毎年8月には、尺玉やスターマインスペシャルなどの花火が打ち上がる「ひたち河原子花火大会」が開催され、たくさん見物客で賑わいます。

また、河原子海岸には「烏帽子岩」があります。もともとは地続きの台地でしたが、波の浸食により削られ、現在の姿になりました。かつては岩の一部が海に隠れていましたが、1985（昭和60）年頃の港湾建設の際に埋め立てられ、海浜公園として整備されました。烏帽子岩には、津神社が祀られ、中腹には「藤田東湖」の詩碑が建てられています。



1. 波に乗るサーファー。県内外を問わず、多くのサーファーが「良い波」を求めて河原子海岸を訪れます。



2. 白い砂浜の海岸線に突如として現れる「烏帽子岩」。河原子海岸のシンボリック存在です。



3. 海上に打ちあがる花火。夜空を鮮やかに彩る「ひたち河原子花火大会」は日立市の夏の風物詩です。



<基本情報>
【所在地】日立市河原子町地内
【問合せ先】日立市シティプロモーション推進課 0294-22-31111
【URL】<http://www.kankou-hitachi.jp/page/page000019.html>

助川山市民の森は、1991（平成3）年3月7日に起きた山林火災の跡地を公園として整備したものです。

この火災は、助川町の国有林から出火し、住宅26棟、山林216haを焼失する大規模なものでした。今でも所々焼けた木の残骸を見ることができます。

火災後の森は自然の力でどんどん回復し、今では四季を通じて楽しむことができます。

「体験を通して楽しく学ぶ自然教育の場」として親しまれることをねらいに、ネイチャートレイル（自然遊歩道）が12コース整備されています。また、高鈴ハイキングコース、助川城跡公園にも通じています。

助川山山頂は標高328mで、眼下には日立の街並みが広がり、山頂にある展望台からは、太平洋から悠々と昇る朝日と、市街地の明かりが彩る鮮やかな夜景を楽しむことができます。

360度の展望は、西側には高鈴山、北側は福島県いわき市、南側は鹿島灘、そして天気良ければ千葉県銚子市までの眺望が広がります。



1・2. 山林火災の様子と焼け跡。火災翌年の1992（平成4）年から毎年、山林火災が発生した時期と同時期に、林野火災消防演習を実施し、不意の山火事に備えています。（写真1・2：日立市郷土博物館提供）



3・4. 助川山山頂から見た朝日と夜景。海と山が近い日立市だからこそ、見ることができる景色が山頂にはあります。初日の出の名所として知られています。



<基本情報>
【所在地】日立市成沢町地内
【問合せ先】日立市都市整備課 0294-22-31111
【URL】<https://www.city.hitachi.lg.jp/park/page/p002525.html>



自然の地形をキャンバスに
多彩な光が織りなす“夜景”

日立市の夜景は、その代表格であるかみね公園からの夜景が、2019（令和元）年9月、筑波山に続き県内2つ目の「日本夜景遺産」に選定されました。

日立市の冬は、乾燥した季節風の影響により、空気中のホコリなどが払われ空気が澄み渡ります。

夜になると、西に連なる山々から東の太平洋まで続くなだらかな斜面を自然のキャンバスに、南北に細長く密集した住宅や学校、工場、港湾などの建物、走行する車などから放たれる多彩な光が織りなす、日立ならではの美しい夜景を楽しむことができます。

かみね公園以外にも、S字に沿って車の光跡が鮮やかな「日立シーサイドロード」、シーサイドロードと市街地を結ぶ「浜の宮らせん橋」、美しいガラス張りの橋上駅舎を透過する光により幻想的に浮かび上がる「JR日立駅」などがあります。

※「日本夜景遺産」とは一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューローが2004（平成16）年から日本各地の美しい夜景スポットを認定し、国内外に発信しているものです。



1. S字に沿って車の光跡が鮮やかな「日立シーサイドロード」と、2.「浜の宮らせん橋」の夜景。走行する車の放つ光により、夜は昼間とは違った表情を見せてくれます。



3. 駅舎のガラスを透過する光が生み出すJR日立駅の美しい夜景。
4. 日立シビックセンター新都市広場は、毎年冬に美しく個性적인イルミネーションで彩られます。

<基本情報>

【所在地】

写真1「日立シーサイドロード」（日立市旭町～東町）

写真2「浜の宮らせん橋」（日立市東町地内）

写真3「JR日立駅」（日立市幸町1-1-1）

写真4「ひたちのヒカリ～明日への輝き～」（日立市幸町1-18）

【問合せ先】日立市シティプロモーション推進課 0294-22-3111

【URL】

<https://www.city.hitachi.lg.jp/citypromotion/hitachikaze/topic/001/p083051.html>



古房地公園から望む日立港区の夜景



「光の千羽鶴」が舞う新都市広場



「吉田正音楽記念館展望カフェ」から見る工都日立の夜の表情



久慈浜海水浴場からの日立灯台

2020.12 発行

ひたち物語～ひたちらしさの数々～“ひたちの絶景”

日立市市長公室

シティプロモーション推進課

茨城県日立市助川町1-1-1

TEL 0294-22-3111 内線 314

MAIL kochocp@city.hitachi.lg.jp

HP <https://www.city.hitachi.lg.jp/citypromotion/>

【アンケートご協力をお願い】



ご覧になった感想等をお聞かせください。